

# 矢板を花いっぱいのまちに！

花の会は、生涯学習館の一階ロビーで毎月班長会議を開催しています。十二月四日には一月の新年会と十周年会報発行の打ち合わせが行われていましたが、そこで、花の会が十年にわたり、会員が増え続けている訳をお聞きしてきました。

会のモットーである「できる人ができる時でできる場所を」

## パート

業にも励みと  
なっています。  
年一回研修も  
あり、夏の尾瀬  
で仲間とともに  
見た景色のすばら  
しさは、今でも心  
中で輝いています、  
と語ってくれました。



が、会員を長続きさせている。  
班長会議での班長さんの意見が会の運営に反映されている。行事ごとに担当の班が決められ、自主性と責任感で運営されている。  
年二回のバザーで上げられた収益金で苗や球根を購入し、長峰公園に植栽している。このことが誇りになり、早朝の作

毎月上旬の金曜日に、はつらつ高齢課でシルバーサポーターの研修会が行われています。昨年の二月に「シルバーサポーター養成講座」を受講した一五名に対するフォロー研修で、毎月十名はこれに参加しています。またほとんどのシルバーサポーターは、昨年の夏に行われた「スポーツトレーナー養成講座」を受講しています。こんなシルバーサポーターの方の一人にお話を伺ってきました。

シルバーサポーターに応募された動機は？  
矢板に転居して数年になり、何かボランティア活動を通して地域にかかわっていきたくて思っていました。  
成人病検診でお世話

## 活躍シルバーサポーター

高年齢課の植木さんから電話があり、「シルバーサポーター養成講座」の話を受講しました。  
自分の健康維持のためだけでなく、お年

活になった「はつらつ高齢課」の植木さんから電話があり、「シルバーサポーター養成講座」の話を受講しました。  
自分の健康維持のためだけでなく、お年

高原山麓に眠っている宝物を発掘し、生かす道をみんなで探ろう！

一二月一日、長井小体育館に約二〇〇人ほどの参加者が集い、「第二回・高原山麓サミット」が開かれ、今回は地域活動に焦点を当て、実際の活動事例を軸に進められました。

基調講演では、茂木のゆずの里・オーナー制度の仕掛け人、石河智舒さんが、ゆずの里をつくり上げるまでのさまざま工夫を披露、「矢板はまだ恵まれて



今後の活動については？  
自分の住んでいる行政区の公民館で毎月行われるお年寄りの健康体操を手伝っていきたくて思っています。  
自分自身が健康体操とウオーキングをして、体重が減り健康になりました。  
高かった血圧も正常値になりました。  
どのような活動をされていますか？  
自治公民館の健康体操や体力測定のお手伝いをしておりま

### 元気印のシルバーエイジ

中地区にお住まいの出川小千代さんは、八十歳でシルバー大学校北校に入學、若い六十代の人たちと二年間、机を並べ無事卒業しました。

同期生が立ち上げたボランティア活動の拠点「ここにクラブ」のパソコン教室に三年前から通い、昨年からはその教室のアシスタントとして教える側になるほど知識を習得、もう一つの趣味である短歌を、パソコンを駆使して作品集としてまとめ上げ、現在はその短歌集が十五冊に。短歌集は、シルバー大学で閲覧できます。

ほかにもグラウンド・ゴルフやウオーキングを楽しんでいる。頭脳も身体も元気な八十五歳のご婦人、頑張っています。

『白髪に汗滴らせ球を追う』  
『ホールインワンせしこの快感よ』  
『未知と言う憧れ裡に棲まわせて』  
われの新年幕上がりゆく』

カメの飼い主から  
お礼がきました

このたびは、搜索願いを掲載して頂きありがとうございました。残念ながらそのカメヌス一五センチはまだみつかりません。

十二年前の春、娘の希望で誕生祝に買ったつがいのカメは、娘の宝物となりました。しかしその娘も大学生となり、私に二匹の世話を託し、泣く泣く家を離れていきました。(中略)残されたオス(メスの三分の一位の大きさ)は、黒い影の気配を感じると、メスが戻ってきたと感じてその方向へ駆け寄る姿が何度もありました。

メスカメがまたいつか戻ってくる日を祈りつつ……  
カメの飼い主より

遅れはせながら、新年明けましておめでとうございます。『市民力かわら版』は第3号を迎えました。2カ月に1度の発行はいつもギリギリ。毎度、市の担当の方をヒヤヒヤさせております。『市民力かわら版』のように市民記者が活動し、市が発行、全世帯に配布している形態は栃木県内で矢板市だけだそうです。本年も『市民力かわら版』をごひいきに願います。

編集後記